

# 四種混合ワクチン (ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ) の 予防接種を受ける方へ

【 苫小牧市健康支援課 ☎ 0144-32-6407 】

## 1 各疾病について

### 【1】ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染で起こる病気です。のどや鼻に感染し、高熱やのどの痛み、嘔吐などの症状が現れます。また、偽膜と呼ばれる膜がのどにでき、窒息死することもあります。1981年に三種混合ワクチンが導入され、予防接種が行われるようになったため、現在はほとんど発生しなくなりました。

### 【2】百日せき

百日せき菌の飛沫感染で起こる病気です。普通の風邪のような症状ではじまり、続いてせきがひどくなり、顔を真っ赤にして連続的にせき込むようになります。熱は出ませんが、乳幼児はせきで呼吸ができず、唇が青くなったり（チアノーゼ）、けいれんが起きることがあります。さらに、肺炎や脳症などの重い合併症を起こし、新生児や乳児では命を落とすこともあります。予防接種により患者数は減少してきていますが、最近、成人などの百日せきがみられ、乳幼児の感染源となることがあるので注意が必要です。

### 【3】破傷風

土の中に存在する破傷風菌が傷口から人の体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素により、筋肉の強直性けいれんで口が開かなくなったり、筋肉の激しいけいれんが起こります。治療が遅れると死に至ることもある病気で、予防方法はワクチン接種以外ありません。

### 【4】ポリオ（急性灰白髄炎）

ポリオは「小児まひ」と呼ばれ、ポリオウイルスに感染することで起こる病気です。ほとんどの人は症状が出ませんが、感染した人のうち約1,000～2,000人に1人の割合で手足の麻痺を起こします。予防接種の効果により日本での患者は発生していませんが、一部の国では今でも流行があり、渡航者等を介してウイルスが国内に持ち込まれる可能性があります。

## 2 副反応について

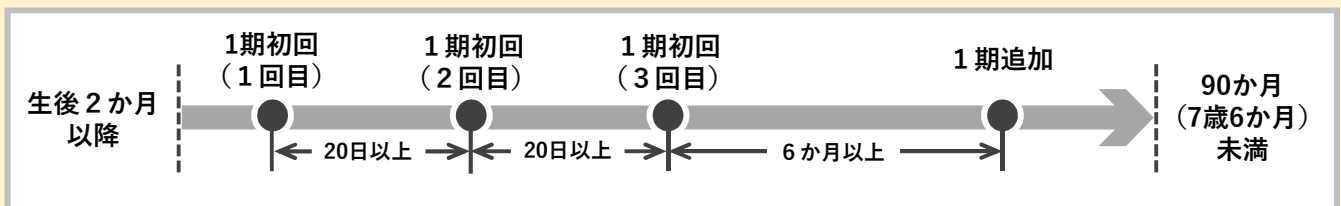
副反応としては、注射部位の発赤、腫脹（はれ）、硬結（しこり）などの局所反応が主となっています。硬結（しこり）は少しずつ小さくなりますが、数か月残ることがあります。通常高熱は出ませんが、接種当日に37.5℃以上の発熱を認めることがまれにあります。なお、重篤な副反応の発生頻度は、0.0012%（※）となっています。 ※平成25年4月1日から令和5年9月30日までの数値

## 接種スケジュールについて

【定期予防接種として受けられる期間】

生後2か月から生後90か月（7歳6か月）に至るまで

- (1) 1期初回として3回接種（それぞれ20日以上間隔をあけて3回接種）
- (2) 1期追加として1回接種（1期初回の3回目終了後6か月以上あけて1回接種）



## 《 予防接種救済制度について 》

万が一、定期予防接種が原因で健康被害が発生した場合は、予防接種法に基づく救済制度があります。この救済制度の請求について、厚生労働省が予防接種との因果関係を認定した場合、国の定める医療費、医療手当等の給付を受けることができます。

裏面もお読み  
ください。

# 予防接種を受ける前の注意事項

## 予防接種を受ける前のチェック項目

- お子さんの体調はよいですか。
- 今日受ける予防接種について、必要性や効果及び副反応など理解していますか。  
わからないことがあれば、質問をメモしておきましょう。
- 『母子健康手帳』は持っていますか。
- 予診票の記入は済みましたか。
- 保護者の方が同伴できない場合には、代理人の方に委任状を渡しましたか。

## 次のような方は予防接種を受けられません

- 【1】 接種会場（医療機関）で測定した体温が37.5℃以上のお子さん
- 【2】 重とくな急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん
- 【3】 その日に受ける予防接種によって、または予防接種に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがあるお子さん（※「アナフィラキシー」とは、通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。）
- 【4】 その他、医師が不適当な状態と判断した人

## 次のような方は予防接種を受ける前にお医者さんによく相談してください

- 【1】 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障がいなどで治療を受けているお子さん
- 【2】 予防接種で、接種後2日以内に発熱の見られたお子さん及び発疹、じんましんなどのアレルギーと思われる異常が見られたお子さん
- 【3】 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子さん
  - けいれん（ひきつけ）の起こった年齢、そのとき熱があったか、その後起こったか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ず、かかりつけ医と事前によく相談しましょう。
- 【4】 過去に免疫不全の診断がなされているお子さんや近親者に先天性免疫不全症の者がいるお子さん（例えば、赤ちゃんの頃、肛門の周りにおできを繰り返すようなことがあった方の場合）
- 【5】 ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗菌薬、安定剤などが入っているものがあるので、これらにアレルギーがあるといわれたことのあるお子さん

# 予防接種を受けた後の注意事項

- 【1】 接種を受けたあと30分間程度は、接種した医療機関でお子さんの様子を観察するか、先生とすぐに連絡を取るようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- 【2】 接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- 【3】 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- 【4】 接種当日は、激しい運動は避けましょう。
- 【5】 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
- 【6】 異なるワクチンの予防接種を受けるまでに必要な間隔は次のとおりです。

## 異なるワクチンの接種間隔パターン

※以下のパターンは、あくまでも異なるワクチンを接種する場合の接種間隔です。  
同一ワクチンの接種間隔は、各ワクチンごとに定められた接種間隔に従ってください。

